

かながわ 区社協だより

1人の100歩より
100人の1歩

No.79

神奈川区社会福祉協議会 広報紙 25.08

社会福祉協議会(通称:社協)とは…

社協は、社会福祉活動を推進することを目的とした非営利の民間組織です。昭和26年(1951年)に制定された社会福祉事業法(現在の「社会福祉法」)に基づき、設置されています。

地域に暮らす皆様のほか、民生委員・児童委員、社会福祉関係者、保健・医療・教育など関係機関の参加・協力のもと、地域の人びとが住み慣れたまちで安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の実現をめざし、さまざまな活動をおこなっています。

「支え合いマップ」 作成へ

神奈川区社会福祉協議会(狩野茂秋会長)はこのほど、人の「つながり」を地図に落とし、目に見える形にすることで、地域の課題や孤立する人を浮かび上がらせる「住民支え合いマップ」の作成へ向け、プロジェクトの進行役(インストラクター)の育成に乗り出した。区社協はこれまで、7自治会町内会・5地区民生委員見童委員会をモデル地区に、専門家を招いた研修会を3回実施。参加者らは7月にそれぞれの地域でマップ作りを行い、8月7日の最終研修会で発表した。

地域社会とのつながりに乏しく孤立した状態で亡くなる孤立死は、独居高齢者や老介護世帯だけでなく、生活困窮世帯でも起こっている社会問題。区社協が中止となつて進める「住民支え合いマップ作り」は、近隣の付き合い状況などを住宅地図上で把握する取り組み。地域の実情を近隣住民が把握し、助け合える関係を築くことが目的だ。

福祉関係者の作る「マップ」や民生委員の作る「要援護者マップ」は、要援護者に印をつけるまでのいわゆる「ケース探し」だが、支え合いマップは要援護者だけでなく、要援護者に関する人についても「動き」

や「関わり」で視覚的に見つけることができる。

マップ作りを担当する区協の梅木博志さんは「マップ作りの過程で見えてきた

課題の解決に向けた行動を、地域住民の力や専門機関の協力で実践するのが最終目的です」と同プロジェクトの意義を話す。

モデル地区で実践

マップ作りのインストラクター育成のために企画された「住民支え合いマップ研修会」(全4回)。モデル地区として参加を希望した7自治会町内会(新子安北・西寺尾第2・東急片倉・片倉町兎山・羽沢南)と、5地区民児協(大口七島・神之木町南・神之木町北・西寺尾第2・東急片倉・毛呂山町)の木原孝久さん

流福祉総合研究所(埼玉県)の代表者らが集まつた。

参加者は、住民支え合いマップの提唱者である・住民

ア5人ほどの「世話焼きさん」に町内会などに集まつてもらい、独り暮らしや老人世帯の情報だけではなく、近所の問題や取り組み

が、近々開催される研修会に

は、区社協のスタッフとともに、マップ作りについての手解きを受けた。

3回の研修を経た参加者は、区社協のスタッフとど

最終回となつた研修会には、神奈川区内の18エリアから約70人が駆けつけた。会場となつた会議室の壁面は、住宅地図上に地域のつながりが書き加えられた各地区の「住民支え合いマップ」が掲示された。その中から特長ある6地区が選ばれ、各代表者がこれまでの取り組みの成果を発表した。その一人、新子安北部自治会の山田章さんは、マップ作りを通じて個人レベルでの人のつながりが見えてきたという。「データだけでは、地域の実態は分からないと痛感した。つながりが希薄な人もいるの

で、超高齢社会になる前に

対策を講じなければならぬ」と話していた。

6地区的発表を受け、木原さんは「東日本大震災を契機に助け合いの意識は高まっている。それぞれの地域で見えてきたことを、どう生かしていくのかを考えてほしい」と述べ、見守りだけで終わつてはいるケースに対する対応では、「高齢者のための『ケア会議』を実施し、全国の事例を紹介しながらアドバイスを行つた。『こ

とにかかるも情報を収集し、つながりを広げてもらいたい』と呼びかけていた。



「地域のつながり」が書き込まれた地図を講評する木原さん(左)



住民支え合いマップを作る参加者とインストラクター

もに対象地域を「住民の助け合いエリア」(約50世帯(ご近所))に切り、各地域でマップ作りをスタートさせた。どの地域にも他人の彼(女)らは「この人の面倒をみるのが好きな世話焼きさん」はいるもの。彼(女)らは「この人の面倒をみるのが好きな世話焼きさん」はいるもの。彼(女)らは「この人の面倒をみるのが好きな世話焼きさん」はいるもの。彼(女)らは「この人の面倒をみのが

い」と比較して、どれだけ足しているかを掲示するや「関わり」で視覚的に見つけることができる。

マップ作りを担当する区

協の梅木博志さんは「マ

ップ作りの過程で見えてき

た課題の解決に向けた行動

を、地域住民の力や専門機

協をしていく」とか「この

人は近くの家の人を困つた

人に頼りにしている」など、

このお爺ちゃんは元気だから大丈夫だよ」と言われる

ことが多いという。サポート

トにあたつた区社協のスタ

ッフは「その人にとつて、豊

くに生きるとほ何か」をと

こどんと考えながらマップを

作ることが大切だと感じ

た」と話していた。

課題などについても地図上に記入しマップを完成させた。

見えてきた地域の実情や

課題を「福祉のあるべき理

想」と比較して、どれだけ

足しているかを掲示する

ことが難しかった」と振り返る。実際に「世話焼きさん」に話を聞くと、「あそ

ん」に話を聞くと、「あそ

う」と話す。

課題などについても地図上に記入しマップを完成させた。

見えてきた地域の実情や

課題を「福祉のあるべき理

想」と比較して、どれだけ

足しているかを掲示する

ことが難しかった」と振り

つけができる。

マップ作りを担当する区

協の梅木博志さんは「マ

ップ作りの過程で見えてき

た課題の解決に向けた行動

を、地域住民の力や専門機

協をしていく」とか「この

人は近くの家の人を困つた

人に頼りにしている」など、

このお爺ちゃんは元気だから大丈夫だよ」と言われる

ことが多いという。サポート

トにあたつた区社協のスタ

ッフは「その人にとつて、豊

くに生きるとほ何か」をと

こどんと考えながらマップを

作ることが大切だと感じ

た」と話していた。

課題などについても地図上に記入しマップを完成させた。

見えてきた地域の実情や

課題を「福祉のあるべき理

想」と比較して、どれだけ

足しているかを掲示する

ことが難しかった」と振り

つけができる。

マップ作りを担当する区

協の梅木博志さんは「マ

ップ作りの過程で見えてき

た課題の解決に向けた行動

を、地域住民の力や専門機

協をしていく」とか「この

人は近くの家の人を困つた

人に頼りにしている」など、

このお爺ちゃんは元気だから大丈夫だよ」と言われる

こと多いという。サポート

トにあたつた区社協のスタ

ッフは「その人にとつて、豊

くに生きるとほ何か」をと

こどんと考えながらマップを

作ることが大切だと感じ

た」と話していた。

課題などについても地図上に記入しマップを完成させた。

見えてきた地域の実情や

課題を「福祉のあるべき理

想」と比較して、どれだけ

足しているかを掲示する

ことが難しかった」と振り

つけができる。

マップ作りを担当する区

協の梅木博志さんは「マ

ップ作りの過程で見えてき

た課題の解決に向けた行動

を、地域住民の力や専門機

協をしていく」とか「この

人は近くの家の人を困つた

人に頼りにしている」など、

このお爺ちゃんは元気だから大丈夫だよ」と言われる

こと多いという。サポート

トにあたつた区社協のスタ

ッフは「その人にとつて、豊

くに生きるとほ何か」をと

こどんと考えながらマップを

作ることが大切だと感じ

た」と話していた。

課題などについても地図上に記入しマップを完成させた。

見えてきた地域の実情や

課題を「福祉のあるべき理

想」と比較して、どれだけ

足しているかを掲示する

ことが難しかった」と振り

つけができる。

マップ作りを担当する区

協の梅木博志さんは「マ

ップ作りの過程で見えてき

た課題の解決に向けた行動

を、地域住民の力や専門機

協をしていく」とか「この

人は近くの家の人を困つた

人に頼りにしている」など、

このお爺ちゃんは元気だから大丈夫だよ」と言われる

こと多いという。サポート

トにあたつた区社協のスタ

ッフは「その人にとつて、豊

くに生きるとほ何か」をと

こどんと考えながらマップを

作ることが大切だと感じ

た」と話していた。

課題などについても地図上に記入しマップを完成させた。

見えてきた地域の実情や

課題を「福祉のあるべき理

想」と比較して、どれだけ

足しているかを掲示する

ことが難しかった」と振り

つけができる。

マップ作りを担当する区

協の梅木博志さんは「マ

ップ作りの過程で見えてき

た課題の解決に向けた行動

を、地域住民の力や専門機

協をしていく」とか「この

人は近くの家の人を困つた

人に頼りにしている」など、

このお爺ちゃんは元気だから大丈夫だよ」と言われる

こと多いという。サポート

トにあたつた区社協のスタ

ッフは「その人にとつて、豊

くに生きるとほ何か」をと

</